

ん。森の中の必要な箇所や、バイパス道路の内日側と蒲生側に車のナンバーを撮影する監視カメラも置いて欲しいですね。暴走族を取り締まる為にも有効でしょう。」

福田「モニターの監視室が要るじゃないですか。個人情報で問題になるかもしれない。」

野口「パチンコ店でもスーパードでもカメラはありますよ。それにいるいる防犯にもなつて女性や、子供連れも安心かもしれない。」

西川「誰か、フジバカマを植えようと言つてた方があった。アゲハチョウのアサギマダラが沢山寄つて来るのが見れるから。」

平野「深坂の管理とは具体的にどんなことをするので

すか?」

司会「施設、備品の管理、貸し出し。清掃、ゴミ処理。」

福田「ゴミの管理、この間、弘前市に行った時、タバコ

の吸殻が落ちてない。下関市にはタバコのポイ捨て禁止条例があるがと言つたら、どうしてそんな物が必

要なのかと不思議な顔をされて恥ずかしかつた。金沢もゴミが無かつた。朝、家の表を掃除している。下関

市はマナーが悪い。」

ろんな植物を植えたい。平野さんの山桜はどうなりました?」

平野「ヤマザクラの実を取つて鉢に植えて置いたら芽を出して、今は葉が落ちてしまつてゐるが、順調に育つてゐる。」

一同「素晴らしい。来年が楽しみですね。」

西川「下関市の環境方針とか、ISO-14001-というのは何ですか?」

司会「よく分かりませんが、下関市はこの認証を得ているようです。あまり関係はないと思いますが、組織が環境汚染などを引き起こさない為に、いろいろ気をつけるということではないかと思ひます。指定管理者の審査の過程で、組織や規則など提出することになるでしょうが、それもISOの認証と関係があると言へばあるでしょう。」

西川「個人情報保護など、この頃非常にやかましいので、施設の運営に携わるようになって、それも気をつけたいといけないうすね。」

司会「深坂の森や施設を管理するメリット、デメリットについてはいかがでしょう。」

福田「管理委託料が入ってくる。全体を管理しているので色々やり易い。いっぱ



いアイデアを出しやれば名所になる。友の会ならできますよ。なにも難しいことはない。」

植野「金銭的な損失が出た時、誰が責任を負うのか? 宅建組合の方では、責任を明確にするため、指定管理者の組織を別にして積極的な賛成者のみに参加する形にした。」

福田「そういう形が必要かも知れない。専従者もいると思う。」

司会「利用者の不便などころは?」

福田「せつかくの施設が十分に生かされて居ない。宣伝不足もあると思う。」

野口「大規模な催しの時には駐車場が不足するのが不便。トイレの数など十分か?」

常岡「お祭りなどの時、深坂には、車が何台位入って居るだろうか? どれ位の規模の催しまでできるだ

座談会メンバー  
福富征男(理事長)  
上畠政利(副理事長)  
西川浩子(専務理事)  
福田幸博(理事)  
常岡梅男(理事)  
平野 正(理事)  
植野善男(新会員)  
野口周三(広報部長)  
城戸哲郎  
(司会、会員交流部会長、プロジェクトリーダー)

ろつか?」

司会「まだまだありますが、後は次の機会にお願いします。」

### 余談・珍談

F「柿の見分け方知つとるかね。柿の葉のギザギザがはつきりしているもの。奇麗に真赤に紅葉しているもの。」

N「そうすると柿右衛門の赤は、柿の実の赤ではなく紅葉した葉っぱの色?」

K「え? え! 釉薬に柿の葉を入れて着色した?」

一同「え?」

U「柿と言えば、小学校の図画の時間に、実が鈴なりの柿の木を描いた。すると先生から、『そんなに実

はならないよ』といわれた。あの時、もし、『いっぱい

つてゐるねえ、美味しそうだなえ』と言われていれば、きつと絵が好きになつたのに、以来画が嫌いになつて

しまった。

### 補助金と

#### ボランティア

一つの補助金を受けようとすると事務局は大変だ。経歴書、決算書、計画書、予算書など支給者の要求する書式に合わせ、沢山の書類を提出し、説明しなければならぬ。おまけに補助金の使途には制限が付くことが多い。購入した物品に補助金名と受給年度を記した名板を付けるなどもその一つだ。何だか、わたしたちの善意による無償の奉仕活動をわずかな金で売り渡したような屈辱感を覚えるという大げさだろうか?

わたし達の納めた会費で買ったものにはそんな名板はない。買った備品や道具よりそれを使つて奉仕した労力の方がよほど価値があるように思うのだが。

正直な所、より自由に活動する為には資金は欲しい。しかし、わたし達はお金のために草刈したりや、ゴミ拾いをしていてるのではない。誰にも強いられず自発的にしているのだ。無意識の内にも誇りをもっている。だからゴミを拾つてまわるのにも抵抗感がない。さくらを愛し、自然を愛しているから、美しい深坂の森を子孫や、市民にプレゼントしたいのだ。この

自由な精神を美しい深坂の森に添えて残したいのだ。

補助金の支給者は補助金が公平に支給されたか、有効かつ適正に使用されたかなどを判断したり、疑義を挟まれた時に答弁する為に書類や窓口での指導振りを残しておく必要があると思われているようだ。その結果、補助金をこれこれの団体に支給して各団体はこれこれの活動を行っているなどと、あたかも支給者がボランティア団体を育成維持しているように業績として誇るようになる。他人のふんどしで相撲を取っているようどこかおかしい。

補助金という名だからさう言う発想になる。感謝報奨金を贈るという制度に改正すべきではないだろうか? 過去一年の実績を評価して感謝報奨に値するものに報奨金を贈る。だから使途は自由である。実際そうではないか? 自発的に活動している団体を補助しなければならぬ理屈はない。その働きが感謝に値するから市民を代表して感謝と今後の更なる活動を支援したいと言う気持ちで贈るべきものではないだろうか。補助金などとは失礼千万。補助金頼みの活動に堕してはならない。武士は食わねど高楊枝。自主独立の精神は想像以上に重い。